大浦地区
地域づくり計画

～地域の魅力を形に～



2017年2月　第1版

もくじ

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P3

地区の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P4

人口推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P4

組織図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P5

地区行事・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P6～P9

各項目一覧・・・・・・・・・・・・・・・・P10～P13

（取り組み時期・取り組み主体）

各項目取り組み内容・・・・・・・・・・・P14～28

参考資料

アンケート

アンケート結果

はじめに

大浦地区の現在の暮らしを充実したものにし、地区の 10 年後、20 年後の未来が今より実りあるものにする計画を策定するために、平成 28 年に「大浦地区地域づくり計画作成委員会」が発足しました。

委員会のメンバーは、幾度となく話し合いを重ね、大浦地区の皆さんの顔を思い浮かべながら、計画を作ってきました。字面だけどんなに素晴らしくても、それが実行されなければ、つまり実際の行動につながらなければ、なんの意味もないと私たちは考えました。

これからの地域の未来を開くための計画にしたい。決まり切った文が散りばめられた無味無臭の計画ではなく、血の通った計画にしたい。そのために、みなさんの声を集め、その想いを形にしました。計画は策定して終わりのものではなく、私たち大浦地区の、過去と現在、そして未来を結ぶ物語です。

ページをめくってください。今を生きる私たちの願いを込めた、大浦地区の進む道がそこにはあります。これから地区としての困難に直面することがあるかもしれません。でも、私たちは信じています。今回の計画を策定した時のように、みんなの知恵とアイデアを持ってすれば、きっと進んでゆけると。この計画が、その礎となってくれることを願っています。



大浦区

地域づくり計画

作成委員会

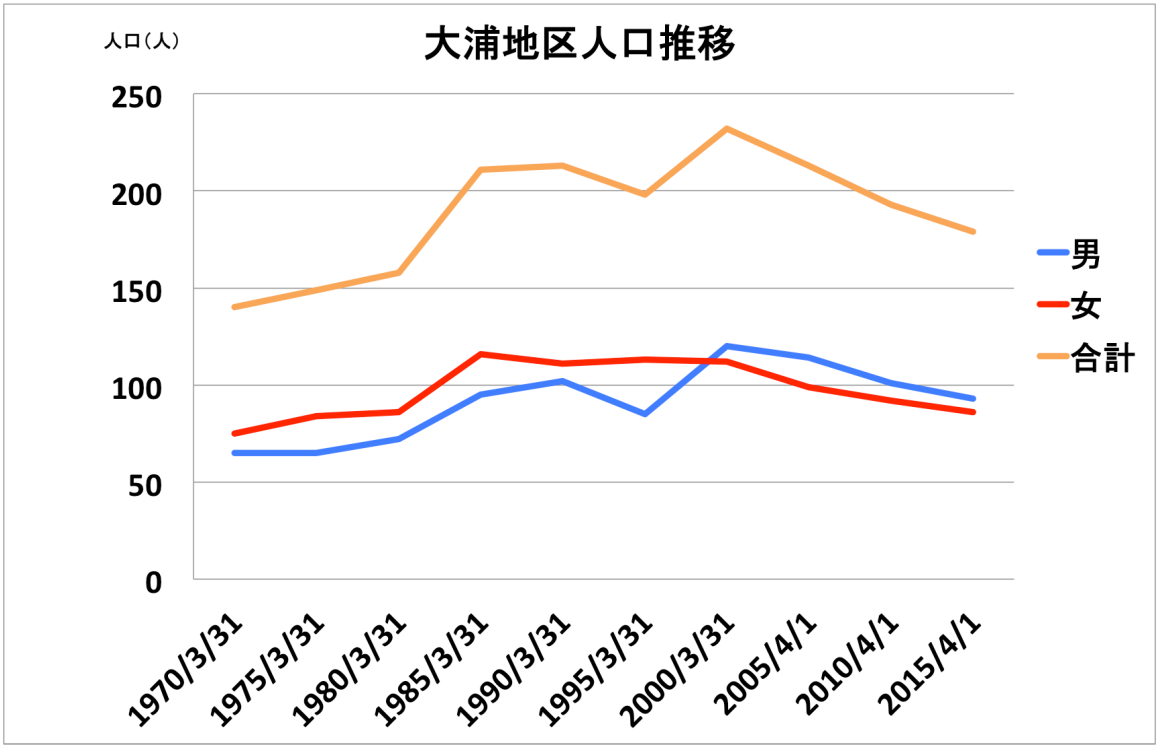
地区の概要

私たちの住む大浦地区は、上対馬町の北西に位置しています。対馬海峡西水道(朝鮮海峡)に臨む大浦湾そして、豊臣秀吉が行った朝鮮出兵時の歴史が残る撃方山は地区の重要なシンボルとなっています。

2016 年 5 月 31 日現在、海上自衛隊関係を除いた地区の人口は 143 人で、世帯数は 66 戸です。かつて、地区の重要な産業として漁業や農業が営まれていましたが、今ではそのような第一次産業を営む世帯は激減しています。

ここ数十年の変化として挙げられるのは、昭和 57 年、上対馬高等学校が比田勝地区から大浦地区への移転、また、平成 10 年の大型商業施設(スーパーバリュータケスエ等)、老人保健施設(結石山荘)の建設です。

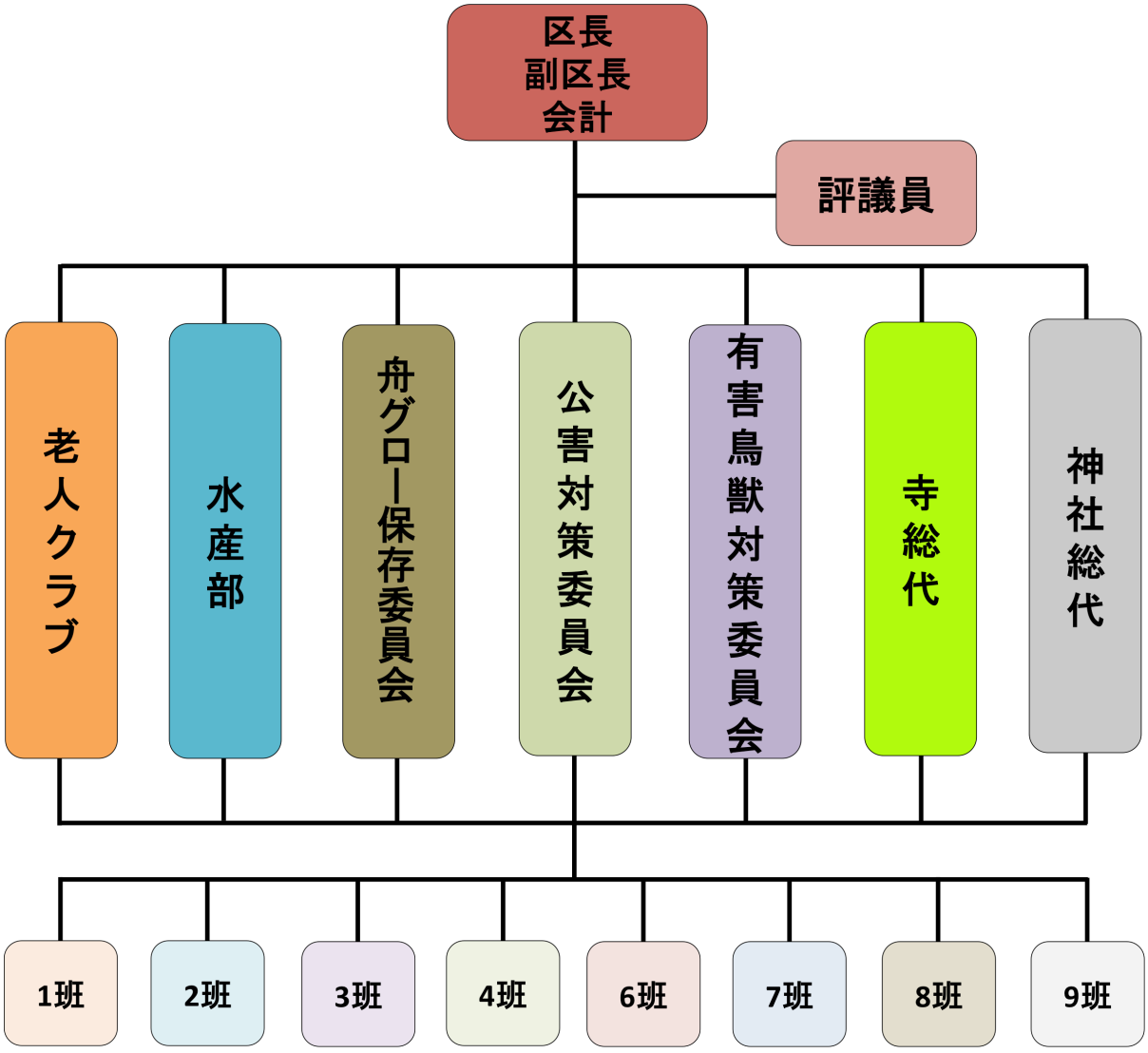
これらの施設は上対馬の商業、介護、教育の拠点となっており、大浦地区に人が行き交う賑わいを生んでいます。(他地区から人が訪れる地区になっています。)



大浦地区の人口は、1990 年まで常に増加傾向にありました。1995 年に一旦人口は減少していますが、2000 年には、統計開始以来、最も多い 232 人が大浦に住むようになりました。これは、1995 年から 2000 年にかけて陸上自衛隊や消防署の職員が大浦に住むようになったことが原因だと考えられます。その後、人口は緩やかな減少傾向にあります。

組織図

大浦地区は、5 班を含まない 1 班から 9 班で構成されています。それぞれの班には班長がおり、地区の情報を回覧板などで班内に伝達しています。



地区行事

４月



“地主神社祭典（礼祭）”

区民の安全と健康を地主神社に祈願するお祭りです。地主神社祭典は、年に３回行われ、神社の当番がモチやお菓子などのお供え物を準備します。毎回、各家から１人以上が参加しています。

“総会(常会と同時開催)”

６月



“地区内クリーン作戦”

地域の方々と雑草を刈り、落ちているゴミを拾い集めています。



“春季グランドゴルフ大会”

上対馬高校のグランドを借りてグラウンドゴルフ大会を開催しています。



“芋植え”

各世帯１名が参加している毎年恒例の芋植えです。休耕地を利用して、芋を植えています。

７月



“上対馬高校舟グロー大会”

毎年上対馬高校の生徒さんたちによって競い合われます。生徒さんたちは、授業の一環で取り組んでいます。



“大浦区舟グロー大会”

大浦地区内の班対抗で競い合われています。隣の河内地区や企業そして上対馬高校舟グロー大会優勝チームも参加しています。

９月



“敬老会行事”

敬老の日に長年地区のために活動してくださった皆さんと島内旅行やゲートボール大会を開催しています。

１０月



“しめ縄づくり”

大地主神社に対し、1 年間の感謝を込め、しめ縄を区民総出で編んでいます。

“秋季グランドゴルフ大会“

１１月



“地主神社祭典（感謝祭）”

11 月は、10 月に出雲に行った地主神社の神様が帰ってくる月です。帰ってくる神様を迎えるための祭典を行なっています。



“芋掘り会”

6 月に植えた芋を参加した方々と収穫します。収穫した芋は区の皆さんに配り、その場で参加者のみなさんと焼き芋にして食べます。また、形が悪い芋や小さく食べられない芋は、イノシシ罠の餌にします。

１月



“新年会（定例集会後）”

新年初めての定会終了後に、定会に参加したみなさんとお酒を酌み交わします。区や日々の話しなど、様々な話題が飛び交います。

２月

“地主神社祭典（祈願祭）”、“役員改選”

３月

“役員引継ぎ”、“役員交代”

各項目一覧

地区のみなさんから回答していただいたアンケートの結果より、取り組み内容
時期・活動主体を決めました。

民間・自治活動

取り組み内容	取り組み予定時期				活動主体			備考
	短期 1年～3年	中期 4年～6年	長期 7年～10年	継続	個人 ・ グループ	地区	行政	
地域の皆が参加でき、意見が言えるような仕組みを作ろう。						◎		地区内に目安箱の設置など

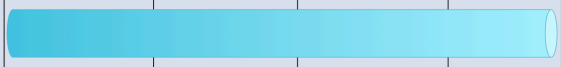
健康生活

取り組み内容	取り組み予定時期				活動主体			備考
	短期 1年～3年	中期 4年～6年	長期 7年～10年	継続	個人 ・ グループ	地区	行政	
健康を促進するため食生活や運動に関する勉強会やイベントを定期的に開催しよう。					◎	◎		・体力づくりのため、体力測定、スポーツ教室などを計画的に行っている。 ・ポイント制の競技を計画して競い合い楽しんでもらえるような取り組みにしたい。

娯楽・文化

取り組み内容	取り組み予定時期				活動主体			備考
	短期 1年～3年	中期 4年～6年	長期 7年～10年	継続	個人 ・ グループ	地区	行政	
ふるさとの歴史、芸術、芸能、物財などの掘り起こし、保存、伝承などを行っていこう。					◎	◎		

衛生

取り組み内容	取り組み予定時期				活動主体			備考
	短期 1年～3年	中期 4年～6年	長期 7年～10年	継続	個人 ・ グループ	地区	行政	
既存の団体と協力して、地区を綺麗に保つ仕組みを考えよう。					◎	◎		
道路、集会施設や花壇など定期的に清掃作業を行おう					◎	◎		
破損しているゴミ集積ステーションを修繕しよう						◎		
市が設置している生ゴミ用バケツを使おう。					◎	◎		資源ゴミの分別に関しても区で取り組んでいく

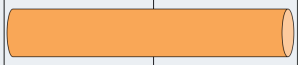
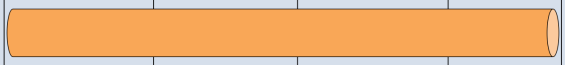
防災

取り組み内容	取り組み予定時期				活動主体			備考
	短期 1年～3年	中期 4年～6年	長期 7年～10年	継続	個人 ・ グループ	地区	行政	
地区内の情報伝達システムを新しく作ろう。						◎		
地区オリジナルの防災マップを作成しよう。						◎		

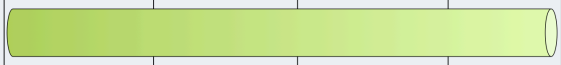
道路

取り組み内容	取り組み予定時期				活動主体			備考
	短期 1年～3年	中期 4年～6年	長期 7年～10年	継続	個人 ・ グループ	地区	行政	
地区内にある見通しの悪い道や道路の穴・陥没などの危険箇所を探して報告しよう					◎	◎		危険箇所＝道幅や見通し の悪さなど。

観光

取り組み内容	取り組み予定時期				活動主体			備考
	短期 1年～3年	中期 4年～6年	長期 7年～10年	継続	個人 ・ グループ	地区	行政	
地区内で民泊をはじめよう。					◎			
舟グローを使って観光客を誘致しよう。					◎	◎		

環境

取り組み内容	取り組み予定時期				活動主体			備考
	短期 1年～3年	中期 4年～6年	長期 7年～10年	継続	個人 ・ グループ	地区	行政	
大浦の自然を残していくための計画を作ろう。						◎		
山林にゴミや 空き缶などが 捨てられない ように看板を設置しよう。						◎		
ゴミが地区内に捨てられないように商業施設に注意を促そう。						◎		・川上のほうに商業施設の発砲スチロールがとんでくる。 ・昼食を埋め立て地で食べ、ゴミを捨てる人がいる。 ・河川や湾内にゴミが溜まりやすい所があり、近くの商業施設から流れ出している。

有害鳥獣

取り組み内容	取り組み予定時期				活動主体			備考
	短期 1年～3年	中期 4年～6年	長期 7年～10年	継続	個人 ・ グループ	地区	行政	
有害鳥獣対策の継続・発展と地域の生業を作ろう 。					◎	◎		

対馬市へのお願い

防災

取り組み内容	取り組み予定時期				活動主体			備考
	短期 1年～3年	中期 4年～6年	長期 7年～10年	継続	個人 ・ グループ	地区	行政	
崖崩れから地区を守ろう。							◎	

防犯

取り組み内容	取り組み予定時期				活動主体			備考
	短期 1年～3年	中期 4年～6年	長期 7年～10年	継続	個人 ・ グループ	地区	行政	
夜間、地区内の暗い所に防犯灯を設置しよう。							◎	7班の神社周辺。

道路

取り組み内容	取り組み予定時期				活動主体			備考
	短期 1年～3年	中期 4年～6年	長期 7年～10年	継続	個人 ・ グループ	地区	行政	
見通しの悪い場所にカーブミラーを作ろう。							◎	
悪くなった道路を直そう。							◎	悪く＝凸凹や水たまりなど

各項目取り組み内容

民間・自治活動：【地域の皆が参加でき、地区への思いを表現できる意見の言える仕組みを作ろう。】

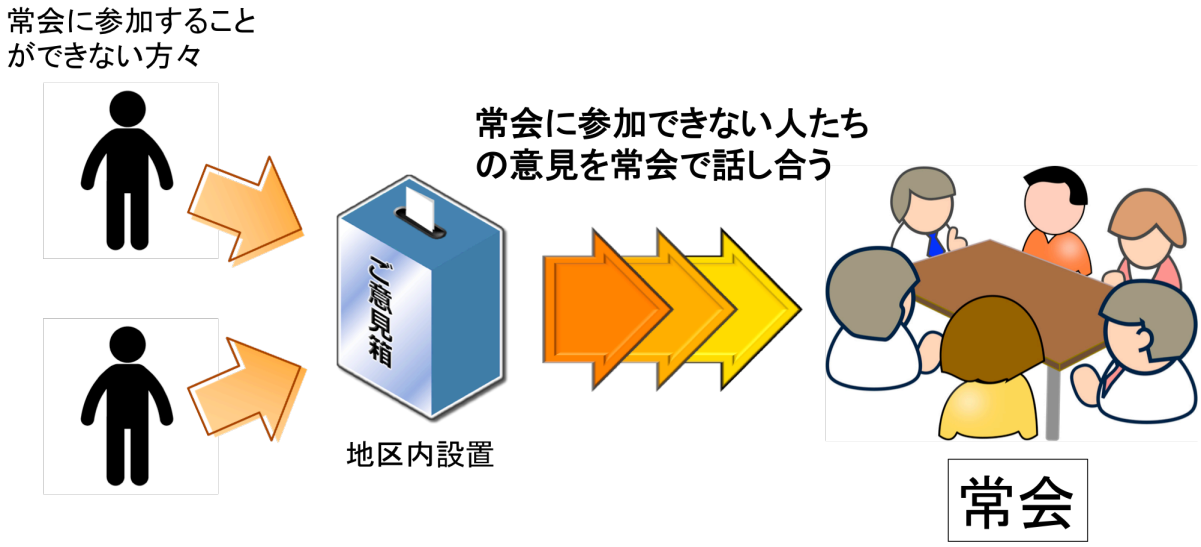
大浦地区が属する上対馬町には 21 の地区があります。その中でも定期的に、地区の運営や行事について話し合う地区会合の場を設けているのは、ここ大浦地区含め、河内谷や浜久須など、5 つの地区のみとなっています。

大浦地区では、地区の定期会合を「常会」と呼んでおり、このような場は地区に暮らす人たちが自分の思いや意見を直接言うことができる、貴重な場となっています。

しかし、すべての地区住民が「常会」に参加している訳ではありません。仕事の都合で時間のやりくりがつかず参加できない、足腰が悪く公民館まで足を運ぶことが難しい、といったそれぞれの事情により、常会に出席できない人も少なからずいます。

そこで、大浦地区では地区内に簡易的な「目安箱」を設置し、住民が好きな時に意見を投函できる仕組みを作ります。目安箱に入れられた意見は定期的に回収し、毎月の常会でその内容について話し合います。

このように、常会以外の場も活用して積極的に地区住民の意見を集めていくことで、住みやすい地域づくりに反映させていきたいと考えます。



※ イメージ図（フリーイラスト使用）

健康生活:【健康を促進するため食生活や運動に関する勉強会やイベントを定期的に開催しよう。】

年々、日本各地で人口に占める高齢者の割合が増加傾向にあります。2015 年の国政調査によると、私たちが住む対馬の高齢化率は全国平均の 26.6 %よりも高い 33.9 %です。対馬で 10 人集まれば、その内の 3～４人は 65 歳以上という計算になります。

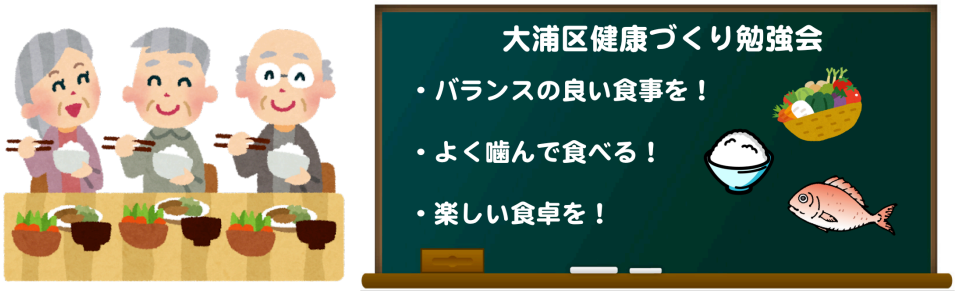
大浦地区でも高齢者は年々増加しており、健康寿命をいかに伸ばしていくかは、地区としても大きな課題となっています。年を取っても健康で暮らすためには、意識して体を動かしたり、普段食べるものに気をつけたりすることが大切です。実施したアンケートの結果では、年に少なくとも１回は健康診断を受けている人が多い一方で、食生活や健康に関する教室に積極的に参加したり、定期的な運動を行ったりしている人は限定的であることがわかっています。

このことから、健康に対する意識はあっても、実際どのようなことをしたらよいかわからない、また、一歩を踏み出せない人が多いことが推察できます。そのため、健康にまつわる勉強会を定期的に開催し、健康を維持するための具体的な行動を取ることができるようにします。

そして、食生活については毎日の食卓で気をつけることなので、家庭ごとでの取り組みを進めることになりますが、定期的な運動については、一人だとなかなか継続するのが難しいかもしれません。

例えば、地域イベントとして、地区の中にウォーキングのコースを作り、みなさんで楽しみながら歩いてみたら良いかもしれません。また、歩くのが困難な方向けには、屋内でできる筋力アップのトレーニングやゆっくり体を伸ばすストレッチの教室の開催等が考えられます。

元気に楽しく歳を重ねたい。これは誰しも思うことではないでしょうか。そのための行動をとっていくのはみなさんひとりひとりですが、そのための後押しを大浦地区は行なっていきます。



イメージ図（フリーイラスト使用）

娯楽・文化：【ふるさとの歴史、芸術、芸能、物財などの掘り起こし保存伝承などを行っていこう。】

大浦地区に暮らす子どもたちや若い世代は、自然と触れ合った経験が少なく、また、遊び場も少ないという点がアンケートでなされています。身近にあると気がつきにくいものですが、大浦には櫓船を使った舟グローや大浦湾、身近な里山など、歴史と文化を体感できる魅力的な場所が多くあります。

このような場を積極的に活用し、普段の暮らしの中で子どもたちが自然や地域そのものと親しめるようにしていきます。昔とは異なり、安心して遊べる環境を整備することが求められています。

また、大浦地区にはお祭りはありませんが、夏の舟グロー大会や年２回のグランドゴルフ大会など、地域のお年寄りが楽しみにしている行事があります。現在行われている行事を大切に引き継ぎながら、より多くの人たちに親しみを持ってもらえる場作りを継続していきます。






※ 写真：大浦湾、舟グロー大会、グランドゴルフ大会、しめ縄作りの様子

衛生：【既存の団体と協力して地区を綺麗にしよう。】
【道路、集会施設や花壇など定期的に清掃作業を行おう。】

大浦地区では年に一度 6 月にクリーン作戦を実施しています。クリーン作戦当日は、地区内の男女およそ 30 人が集会施設の周囲の清掃作業、防風林の葉の剪定やゲートボール場の草抜きをし、汗を流しています。しかし、大浦地区はとても広くまた、クリーン作戦の参加者も少ないことから地域の細部まで清掃することは非常に困難です。

大浦地区には男性陣のみで結成された「元気会」という団体があります。元気会は大浦の地域活性化に繋がる活動をする為に結成されたもので、昨年 10 月にはクリーン作戦とは異なる、歩道のゴミ広いや草刈りなどの活動を行いました。

大浦地区ではクリーン作戦で清掃できていない場所を元気会など既存の団体で補っていきます。また、しっかりとした活動日時を決め、定期的に清掃活動を行なっていきます。



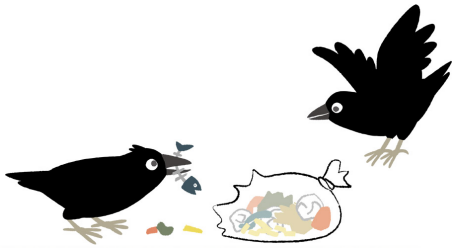
※ イメージ図（フリーイラスト使用）

衛生：【破損しているゴミ集積ステーションを修繕しよう】

大浦地区内のゴミステーションは設置から十数年が経過しており、いくつかの破損箇所が見られるようになりました。ゴミステーションが破損していると、鹿や鳥などがゴミを荒らしてしまう恐れがあり、悪臭の原因につながり、また地区の景観をそこねてしまいます。

みなさんの家の近くのゴミステーションは破損していませんか。ゴミを出しに行く時、近くを通りかかる時にでも確認してみてください。どんな小さな破損でも構いません。確認したら、常会でお伝えください。

大浦地区では地区のみなさんがより快適に生活できるように、また地区の美化のため破損しているゴミステーションの修繕を行っていきます。





左：生ゴミ用バケツ　中央・右：地区内に置かれている
ゴミステーション

図：フリーイラスト使用

衛生：【市が設置している生ゴミ用バケツを使おう。】

みなさんは市が生ゴミの分別収集を推進していることをご存知でしょうか。現在、対馬島内では 1508 世帯（平成 29 年 2 月末現在）で生ゴミ分別用のバケツが使われています。対馬の世帯数は約 15000 世帯なので 1 割程度の使用率です。

生ゴミは集めて燃やせば良いのではないか、なぜわざわざバケツに入れて出さなければならないのか、と思われた方もいるかもしれません。

現在、収集された可燃ゴミは、焼却炉で高温処理されています。しかし、水分の多い生ゴミが混入していると、完全に燃えるまでに時間がかかり、また、燃やすために多くの燃料を必要とする場合もあります。

実は、廃棄物の処理費用の中でも、焼却炉の運営処理管理や燃料代というのは大きな割合を占めています。特に、人口の少ない自治体では発生する廃棄物の総量が多くないため、燃やした時にダイオキシンの発生を抑えることができるとされる燃焼温度を維持するためには、追加で燃料を投入し炉の温度を保つ必要があります。このような助燃と呼ばれる過程は、焼却炉の寿命を縮めることにもつながります。

離島である対馬市では、焼却に利用する燃料費も島外から運搬する必要があるため、長崎県内でも廃棄物処理にかかる年間一人当たりの負担費用は高くなっています。現在稼働している焼却炉の延命化をはかり、さらに、廃棄物の焼却に係る費用を削減するためにも、生ゴミを可燃ゴミと分けて処理するというプロセスは不可欠なものです。

廃棄物の処理作業やそこに発生するコストは、なかなか実感しにくいものですが、家庭での小さな心がけが、大きな費用削減に貢献します。

※ 生ゴミ用バケツ実際に使用している地区の方たちの声

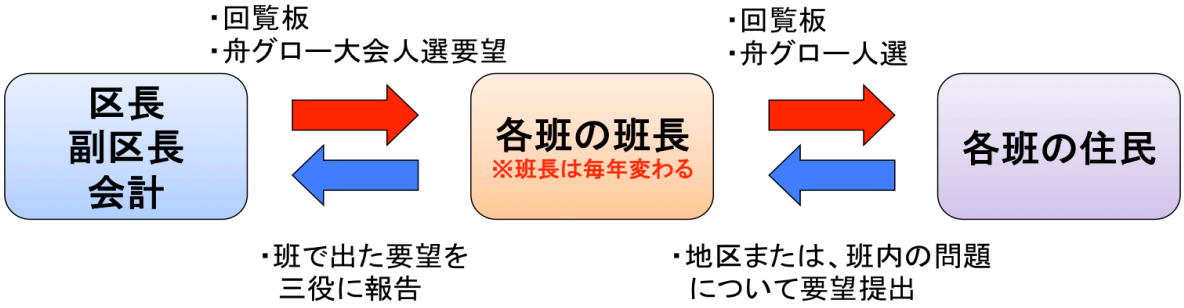
- これまでは、一つのゴミ袋に一般のゴミと生ゴミを一緒に入れて捨てていました。生ゴミバケツを使うようになってからは、一般ゴミは週に1回出せばよくなり、ゴミ袋の消費を抑えることができ、節約にもつながりました。
- バケツ自体は筒状で、とても軽く小さいため高齢の方でも持ち運びがとても楽です。



イメージ図
（フリーイラスト使用）

防災：【地区内の情報伝達システムを新しく作り直そう。】

私たちが住んでいる大浦区内は、1 班～4 班、 6 班～9 班の 8 つの班に分けられています。各班には班を取りまとめる「班長」がおり、現在の仕組みでは、地区内の情報は班長を中心に区民の間で共有されます。



図：情報共有の仕組み

しかし、平成 28 年 8 月に実施したアンケート結果を見る限り、情報を正確に伝えるという点で既存の仕組みが機能しているとはいえませんでした。その一例として、災害発生時に避難する場所に関する問いへの回答をご紹介します。

アンケートの「災害が起きた時に避難する場所はあるか」という問いに対して、多くの住民が災害発生時に避難する場所が「ある」と回答していました。一方で、自由記述の回答では「避難場所がわからない」といったそもそも避難する場所を知らないといった回答や、避難場所をわかっていると回答していても、人によって「上対馬高校が避難場所である」「集会所が避難場所である」といったように回答にばらつきがありました。

このことから多くの地区住民は、「避難する場所はあると思うが、正確な場所はわからない」状態にあると言えます。現在、避難が必要な災害が発生した際には「避難場所」として「公民館」に行くこととなっており、津波や高潮など甚大な被害が想定される場合は「避難所」として「上対馬高校」へ避難することになっています。

災害の規模によって避難する場所が変わるため、日常から「避難場所」と「避難所」についての違いを認識しておくことが、迅速な避難を行うために必要です。特に、大浦地区内は上対馬高校や大きな商業施設など、

一般的に避難できそうだと考えられる場所が何ヶ所かあり、正確な情報が伝わっていないと、いざという時にどこに避難したらよいか、住民が混乱してしまう可能性があります。

以上の現状を踏まえ、我々大浦区民は新しい情報伝達システムを作り、災害時に備えて準備をしていきます。

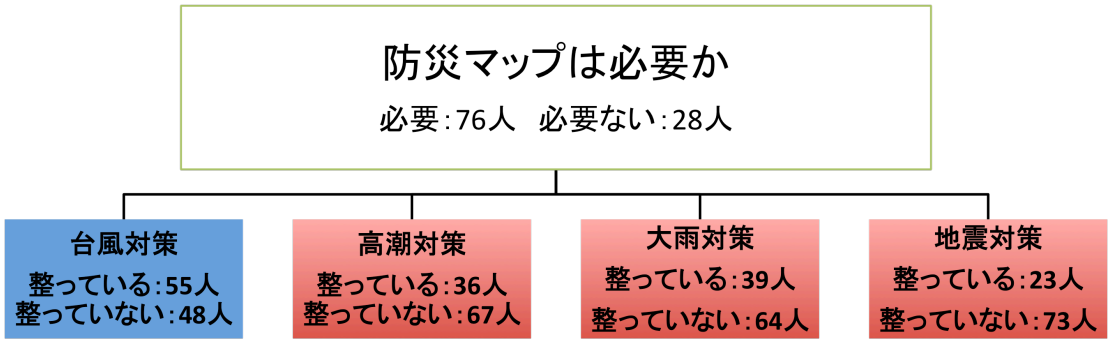
防災：【地区独自の防災マップを作ろう】

近年、日本各地で自然災害による被害が多く報告されています。上対馬町内でも、台風や大雨による被害、特に崖崩れ等の土砂災害による被害が頻発しています。このような状況を受けて、対馬市は平成 28 年 9 月にハザードマップを作成しています。

しかし、市が作成したハザードマップは土砂災害に特化したものであり、多くの地区住民が不安を感じている高潮や大雨、地震災害への対策を立てるためには、災害全般を網羅した防災マップが必要です。

下図から言えるように、住民の７割以上は「**防災マップが必要**」であると回答しており、防災マップ作成への高いニーズがあることがわかります。特に、地区で役立てるためには、地域の特性を反映したものが求められます。

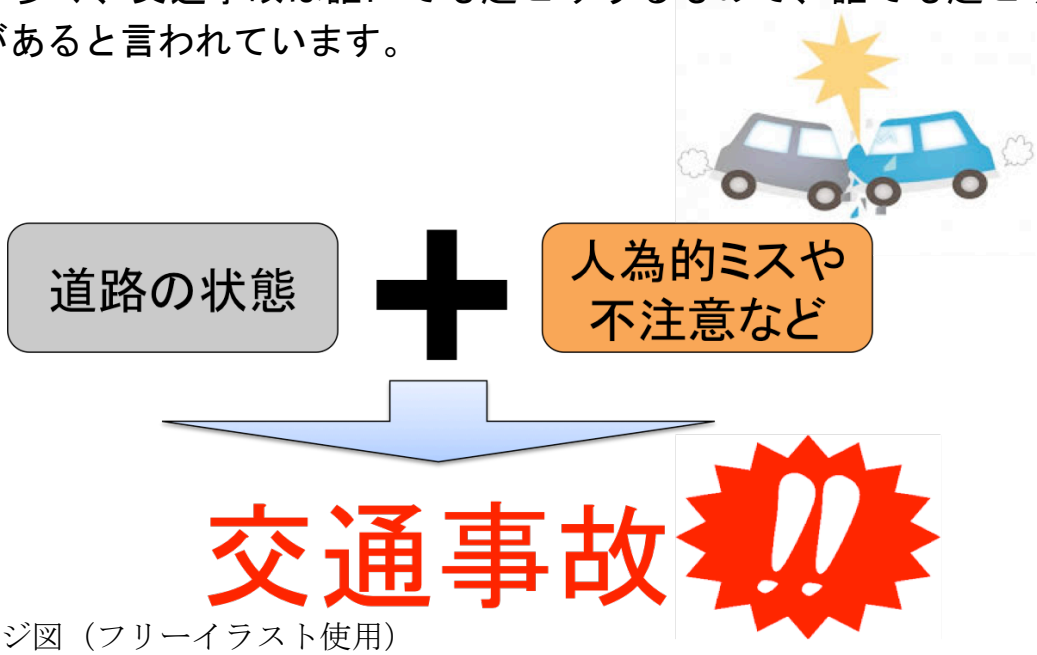
以上のことから、我々大浦地区は、地域住民がより安心して生活を送れるようにするために、大浦地区独自の防災マップを作成します。



図：災害対策に関する住民の認識

道路：【地区内にある見通しの悪い道や道路の穴・陥没などの危険箇所を探して報告しよう】

交通事故は、道路の状態や人為的なミス・不注意などが原因で発生することが多く、交通事故は誰にでも起こりうるもので、誰でも起こす可能性があると言われています。



イメージ図（フリーイラスト使用）

大浦地区での重大な交通事故を未然に防ぐための一歩として、地区内の道路状態を把握することが挙げられます。アンケートの結果、ほとんどの住民は、道路状況について「**問題は無い**」と回答しています。普段の暮らしの中で、路面の状態に注意を払う機会は少ないですが、交通安全の観点から意識しておくことが大切です。

交通事故が起きてしまうもう一つの要因として、運転中の不注意が上げられます。大浦地区の中にも、人的ミスを誘発する可能性がある見通しの悪い危険な箇所があります。アンケート結果によると、最も多くの住民が危険であると指摘した場所はスーパーの出入り口でした。このように認識されている危険箇所の他にも、隠れた危険があるかもしれません。地区全体で見直す必要があるでしょう。

以上のことから、大浦地区内で事故が起きないように、地区内にある見通しの悪い道や道路の穴・陥没などの路面の状態がよくない危険箇所を探して、地区に報告し、対応策を検討します。例えば、スーパーの出入り口にミラーを設置することなどが、対策案のひとつとして考えられます。

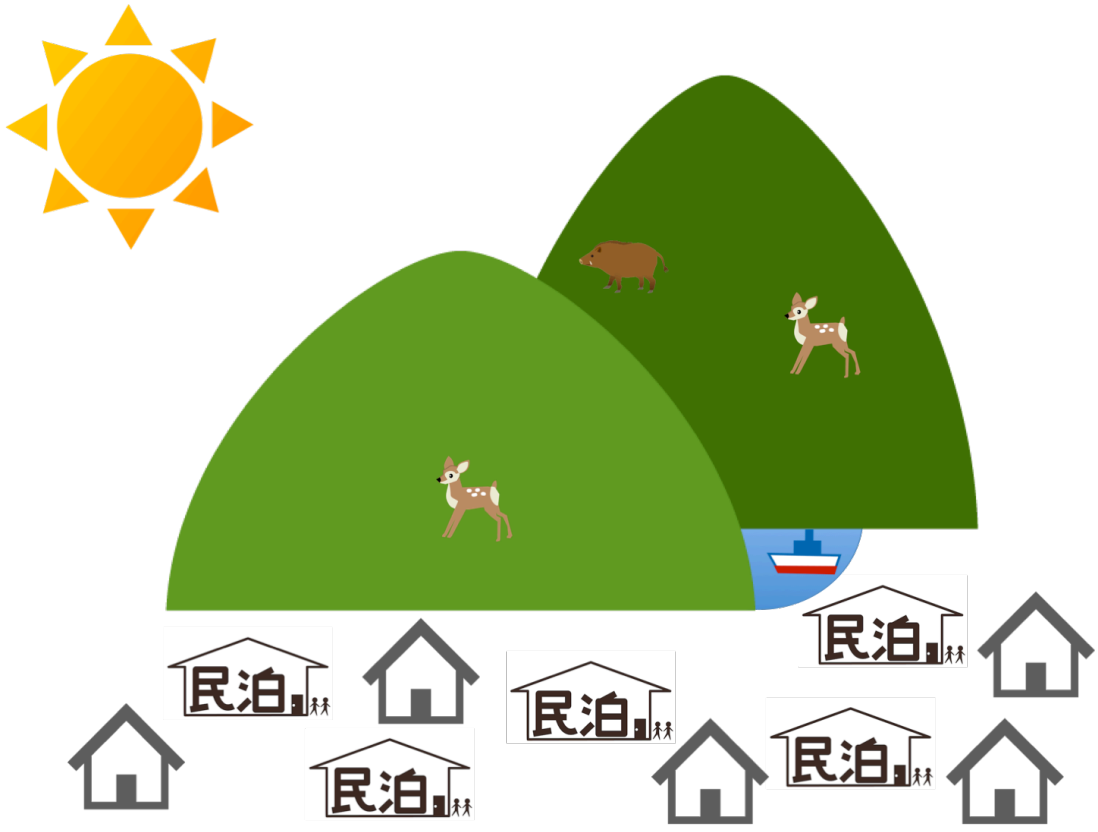
観光：【民泊をはじめよう】

地域の農林漁業を体験しつつ、家族の一員のようにその家に暮らす人たちと同じものを食べ、おしゃべりを楽しむことができる民泊。観光客とその受け入れ先の民泊実施者の双方にとって、多くの魅力があることから、様々な地域で近年じわじわと広がりつつある取り組みです。

対馬でも、南から北まで民泊が点在していますが、大浦にはまだひとつもないのが現状です。島外からの観光客に海も山もある大浦地区を存分に体感してもらうためには、民泊が最も効果的だと考えられます。

日々刻々と変化を遂げる四季の風景だけでなく、地区で採れる新鮮な海の幸、山の幸をふんだんに使ったお母さんたちの心温まる手料理であり、お父さんたちの笑顔であり、普段着のあるがままの大浦が魅力そのものです。

地区内の国道をただ通り過ぎるだけでなく、飾らないこの地の素敵なところを多くの人に知ってもらえるようにするために、大浦地区は民泊の仕組みを導入していきます。



※ イメージ図（フリーイラスト使用）

観光：【櫓船を使って観光客を呼び込もう。】

小型発動機船が登場する以前は、集落から離れた農地に農作業に出かける際や漁業を行う際には、櫓船が活躍していました。特に昭和 40 年頃までは、堆肥用の藻やカジメ、ワカメを刈る際に櫓船は暮らしに欠かせない存在でした。現存するモノクロの写真を見ると、刈り取った藻を櫓船に載せている様子が生き生きと残されています。

時代の流れとともに、島内の多くの集落で櫓船はその姿を消しました。しかし、大浦地区には現在に至るまで 2 隻の櫓船が引き継がれてきており、これを地区として所有しています。

この貴重な櫓船を活用し、毎年夏に上対馬高校の生徒さんの郷土体験学習をお手伝いしています。また、2 年に 1 回は、大浦地区内において、舟グロー大会を開催しています。このような行事を維持するために、舟の手入れとして月に 1 回「潮打ち」と呼ばれる、櫓舟に海水をかけ乾燥を防ぐ作業を行なっています。

普段の暮らしの中では使うことがなくなった櫓船ですが、この地の文化を語る上で欠かせない存在であることに変わりはありません。櫓船の魅力は、展示してあるものを見るだけではわかりません。実際に乗って大浦湾に漕ぎ出した時に、海との一体感、そして海から見える陸の風景を楽しむことができます。

大浦地区は、より、多くの人に櫓船の魅力を伝えていきたいと考えています。そこで、新たな取り組みとして、体験型観光という切り口から、櫓舟体験を売り出していく計画を立てています。

櫓船体験はここでしかできない経験のため、地域に民泊する観光客や、修学旅行の誘致にもつながる可能性があります。これまで行なってきた活動は大切に継続しつつ、新たな活動に挑戦していくことで、櫓船の文化を後世に伝えていきます。



※ 上対馬高校舟グロー大会の様子

環境：【大浦の自然を残していくための計画を作ろう】

対馬を初めて訪れた人の心をまず魅了するもののひとつは、この島の自然です。島外では体感することができない対馬の自然は、多くの人の心を引きつけ、また癒す力を持っています。

この大浦地区も、大浦湾をはじめとし、四季折々の変化を楽しむことができる撃方山といった豊かな自然に囲まれた集落です。アンケート結果でも、半数以上の住民が「将来に残しておきたい自然がある」と答えていることから、この自然は、大浦地区の宝であり、後生まで引き継ぐべき地区としての財産です。

一方で、この素晴らしい自然を後の世に残していくためには、磯焼けや海岸漂着ゴミ、獣害など解決しなければならない課題が山積しています。

そんな中、大浦地区では、海岸清掃やイノシシやシカの駆除、年に一度のクリーンアップといった地域の自然を保つ活動を行っています。このように、大浦地区では身近なところでできることから始めていますが、取り組みをより効果的な形で実践していくために、具体的な目標を設定し、中長期的な視野に立って活動を行っていきます。その土台となる、地区の環境保全計画を策定し、随時計画の見直しを行いながら活動を展開していきます。



※ イメージ図（フリーイラスト使用）

環境：【山林や地区内にゴミや空き缶などが捨てられないように注意を促す看板を立てよう。】

人が暮らしているところには必ずごみが発生します。家庭以外の場所でごみが目につく機会というのは多いのではないでしょうか。代表的な例としては、商業施設で購入した飲食物を大浦湾付近で食べて、その場にごみを置きっぱなしにして帰ってしまう人がいたり、人目が届きくい山の中で不法投棄されていたりといったことが挙げられます。

これは観光客のみならず、対馬で暮らす私たちみんなのモラルが問われているといえるでしょう。自分の家の中やまわりを綺麗に保つことと同様の感覚を地域内に対しても持つことが必要なのではないでしょうか。

視点を置き換えてみると、「割れ窓理論」という話があります。これは、ある地区の中にある建物の窓が壊れているのを放置すると、「この場所は防犯に配慮していない」というメッセージを対外的に発信していることになり、地区で発生する犯罪が増加する、という理論です。「割れた窓」というのは、誰もその状況に注意を払っていないという象徴です。

「割れ窓」を「ごみ」に当てはめてみましょう。地区のある場所にごみが捨てられたままになっていれば、その場所は環境保全に配慮していない、というメッセ―ジになります。

アンケートでは、畑の中や道端にごみが捨てられていることが多々ある、という回答がありました。地区内に捨てられているごみに気が付いた人が積極的に拾うことで、新たなごみが同じ場所に捨てられることを防ぐことにつながります。併せて、ひとりひとりのモラルに訴えるべく、地区で看板を設置し、ごみの投棄に対する注意喚起を行うことにしています。



※ イメージ図（フリーイラスト図）

環境：【河川や湾内にゴミが溜まりやすい所があり、近くの商業施設から流れ出している。商業施設に注意を促していこう。】

地区内に大型の商業施設を有する大浦地区は、地区住民以外の地区への出入りが激しいということが挙げられます。食品をはじめ、暮らしに必要なものが購入できる商業施設が身近にあることは、大変便利です。地域内外の交流のきっかけを生む地域に密着した商業施設は、地区の活気の源の一部として欠かすことのできない存在です。

一方で、アンケート調査からは課題も浮き上がってきました。ここで、図の 35 を見てください。これは「生活をする上で、騒音や振動、悪臭などはないか」という質問に対する結果です。「はい」が 18 人、「いいえ」が 89 人と、回答が大きく分かれました。

「はい」と答えた人の自由記述での細かい回答内容について見てみると、気になることとして「商業施設の音」、「商業施設の放送の音量の大きさ」、「商業施設裏の室外機の音」が挙げられていました。「はい」「いいえ」の回答数の差の開きや自由記述での意見から、商業施設付近に住んでいる住民とそうでない住民の間で騒音に対する実感に差が生じていることが推測できます。

また、前項と同じ「ごみ」という切り口でも、商業施設から湾内へのごみの流入が指摘されています。湾内でも船台付近やコンクリート工場横の海岸に商業施設から出てきたと推察できるごみが溜まりやすく、特に大雨後や高い潮が引いた後に目立つことがアンケート結果から明らかになっています。

このことから、地区として同施設に対し騒音やごみ対策の実施を求めていきます。大浦地区は、地区と商業施設で定期的に対話を行う場を設け、双方が協働して地区の環境美化に取り組むことができるように努めていきます。



※ イメージ図（フリーイラスト使用）

有害鳥獣：【有害鳥獣対策の継続・発展と地域の生業を作ろう。】

夜間、大浦地区の中では多くの鹿やイノシシを見かけます。鹿やイノシシによる農林業への被害は対馬島内でも数多く報告され、いくつもの地区が防護柵の設置や有害鳥獣捕獲に対する活動を積極的に実施しています。

みなさんは大浦地区に 2 名の有害鳥獣捕獲従事者がいることをご存知ですか。捕獲従事者たちは大浦地区で作った箱罠 20 基のうち 10 基ずつ受け持ち、各自で使用しています。しかし、捕獲従事者の数が少なく罠への餌やりや見回りが十分にできていません。そのため、捕獲頭数に限りがあり、有害鳥獣対策が進んでいないのが大浦地区の現状です。そこで、上記の問題を解決する一つの方策として、大浦地区では捕獲隊の結成・増員を促進していきます。地域住民が捕獲隊に加わることにより、有害鳥獣従事者でなくても罠への餌やりや、見回りが可能になり、有害鳥獣対策へと繋がると考えられます。

一方で、捕獲隊が結成・増員されたことを想定した場合、箱罠が増え、罠に使用する餌の不足が心配されます。大浦地区では、11 月に芋掘り会を開催し、収穫された芋は地域住民に配られ、形の悪い芋はイノシシの罠の餌に利用されています。しかし、芋を植えている畑の面積は狭く収穫される芋の量には限りがあります。したがって、地区内にある休耕地を再生・利用することで、芋の収穫量を増やす活動を捕獲隊の結成・増員の促進活動と並行して行います。さらに、芋の収穫量が増えた際、芋を加工し販売することを目標とすることで、地域に生業を生出します。



※ イメージ図（フリーイラスト使用）